

旭川市

これからの地域コミュニティのヒント

2024年10月20日



酒本 宏

KITABA

全国1000以上の町内会・自治会の皆さんと意見交換

酒本 宏 (さけもと ひろし)

- 株式会社KITABA 代表取締役
- 技術士(都市及び地方計画部門・総合監理部門)
- 北海道大学工学部非常勤講師(コミュニティデザイン)
- 北海学園大学非常勤講師
- 札幌市 まちづくりセンターアドバイザー
- 一般社団法人 北海道観光を考えるみんなの会 事務局長
- 札幌市内の町内会の総務部長

- 2013年 町内会による加入促進活動支援事業企画運営
- 2014年 札幌市、仙台市、函館市、千歳市、上富良野町、滝川市、
砂川市などで町内会活性化関連の講演などを多数
- 2020年 札幌市町内会アドバイザー派遣業務(～継続中)
- 2021年 横浜市瀬谷区、埼玉県戸田市、北海道斜里町で講演
- 2022年 仙台市、栃木県宇都宮市、砂川市、余市町、斜里町などで講演・ワークショップ
- 2023年 札幌市町内会アドバイザー派遣業務、久留米市、堺市、川崎市、仙台市、
石巻市、盛岡市、大阪市職員研修、函館市職員研修などで講演・ワークショップ



今日の話題提供

1. コミュニティはいま
2. 旭川市の地域コミュニティ
3. 現役・若い世代が活動するコミュニティは活気がある
4. 旭川市 これからの地域コミュニティのヒント

1. コミュニティはいま

(1)コミュニティを取り巻く現状

交流・環境美化など

基本
機能

基本
機能

地域
課題

高齢化



防災体制



地域
課題

少子化



ヤングケアラー



地域
課題

孤独・コミュニティの場

基本
機能

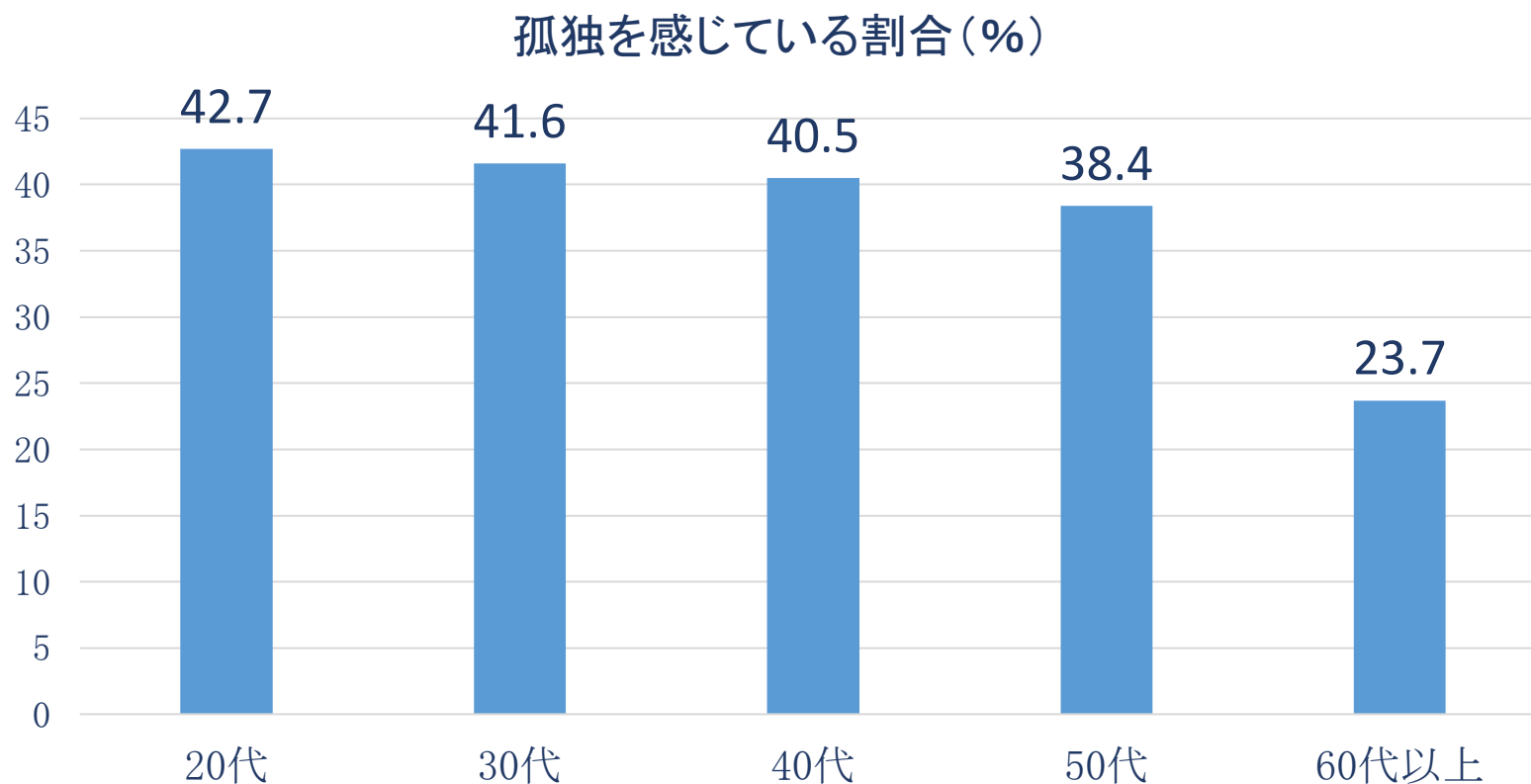


●子育て世代のニーズ

- 子どもを連れておしゃべりできる場所があるとよい
- 会館をオープンな場として利用できるとよい
- 緊急時に近隣の方に子どもを預けられるような仕組みがあるとよい
- 地域全体で子どもを育てるような活動があるとよい
- 子育て世代が町内会活動に参加するきっかけとなる取組があるとよい
- 子育て世代が参画しやすい雰囲気があるとよい

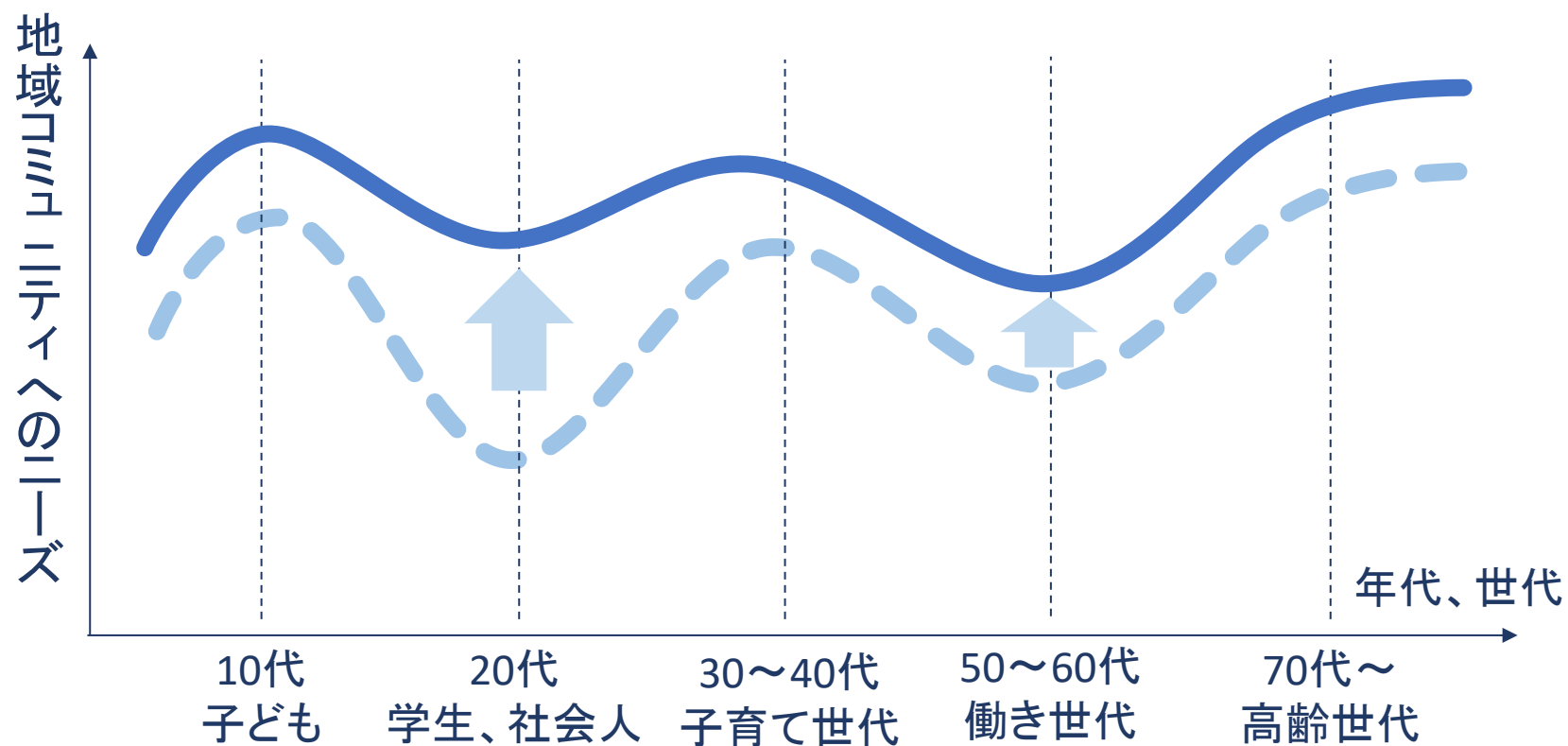


●若い世代も「孤独」を感じている



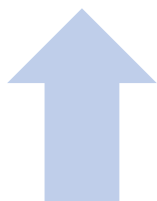
「特定非営利活動法人あなたのいばしょ」と「国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST)」が2022年2月に実施した「コロナ下での人々の孤独に関する調査」では、孤独を感じている割合が最も高いのは20代で42.7%、最も低いのは60代以上で23.7%となっています。

●地域コミュニティへのニーズ(イメージ)



(2) 町内会の活動がコミュニティの価値を高める

コミュニティの価値を高める



住んでみたいまち
住み続けたいまち



安心・安全なコミュニティ
適度な人のつながりと交流
災害時の助け合い
楽しい暮らし

地域コミュニティの中心的な担い手の町内会

- まちづくりや環境評価などでその効果を貨幣換算できない時に使う「**ヘドニック法**」をヒントにすると、自治会など活動の価値は以下のように考えることができます。
- 町内会活動によってごみステーションの管理はもちろん、清掃や花植えなどの交流が行われ、不動産価格が周辺地域に比べ1,000円/坪高いと仮定します。
- その時の町内会活動が生み出す価値
 $80\text{坪}(\text{会員の住宅平均坪数}) \times 1,000\text{円/坪} \times 100\text{世帯} = 800\text{万円}$



町内会活動は目に見えないだけで地域の価値を高めています

横浜市港南区美晴台地区

子育てにより
住みやすい

空き家が出ると
子育て世代が
移り住む

ボランティアで
子どもの
イベント

住宅地として
価値が高い

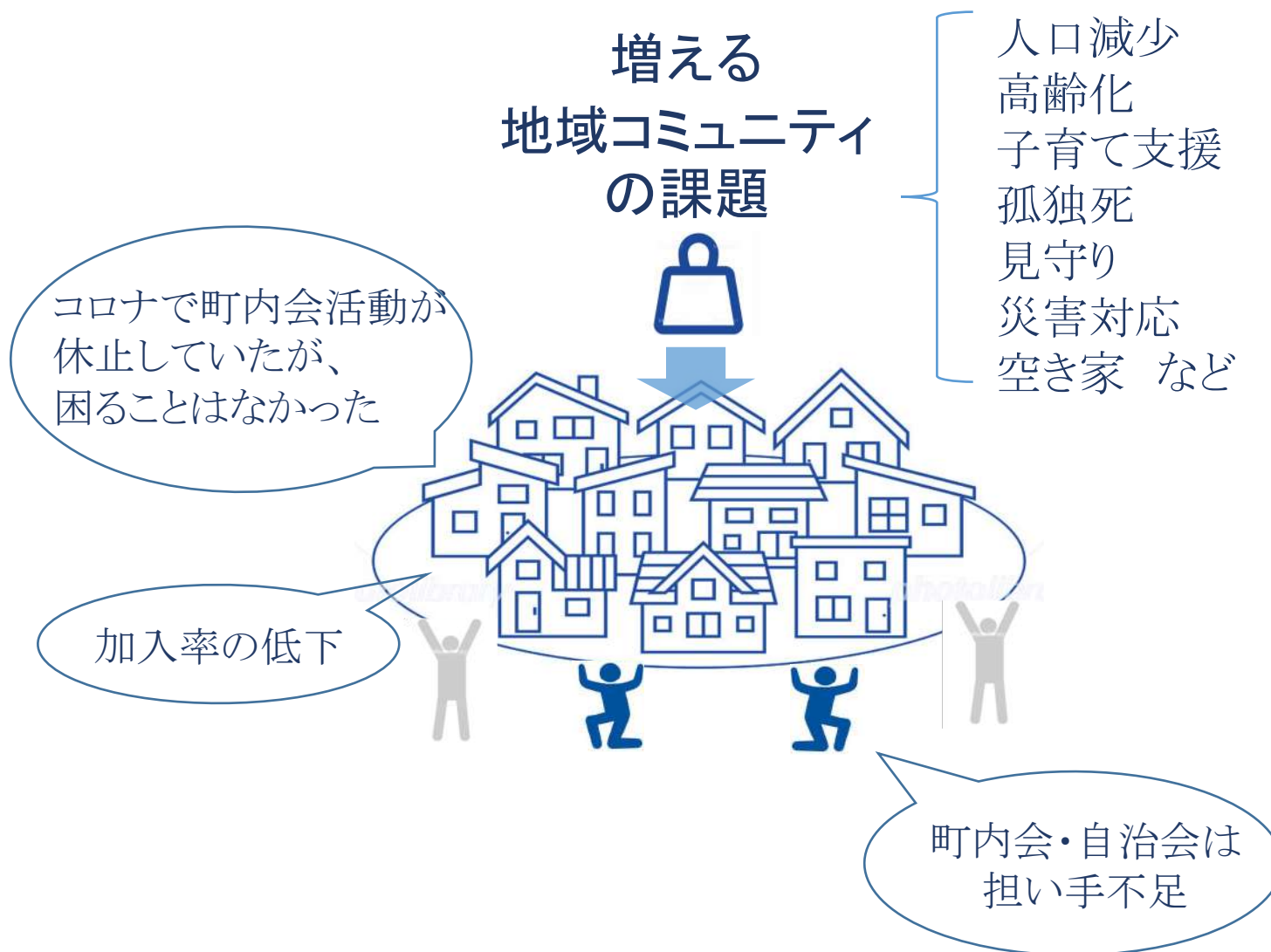


50年以上経過する住宅地
約700世帯

ハロウィン
道の名前をつける
ワークショップ など

自治会は担い手不足でも
活発なコミュニティ

(3) 町内会の課題

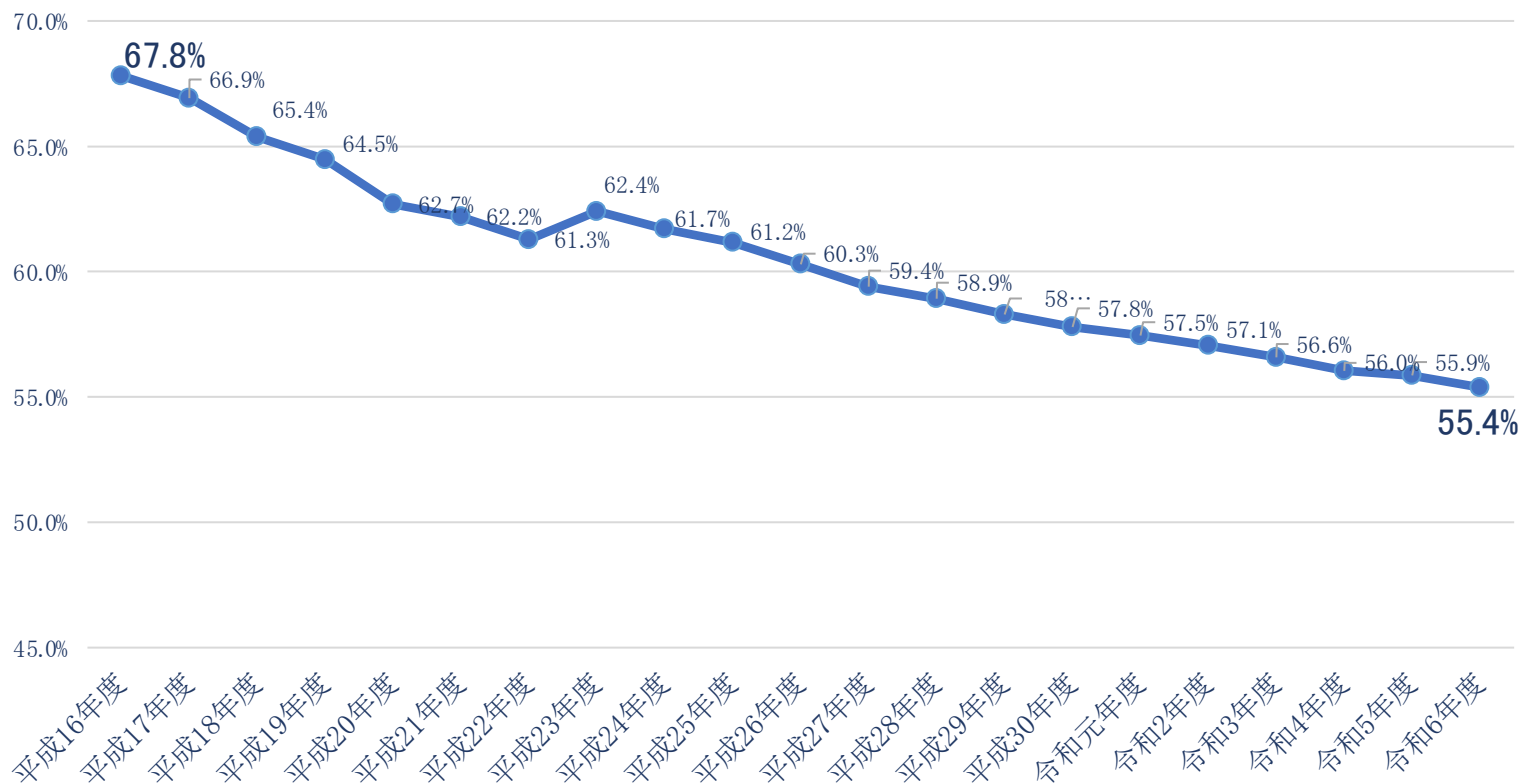


2. 旭川市の地域コミュニティ

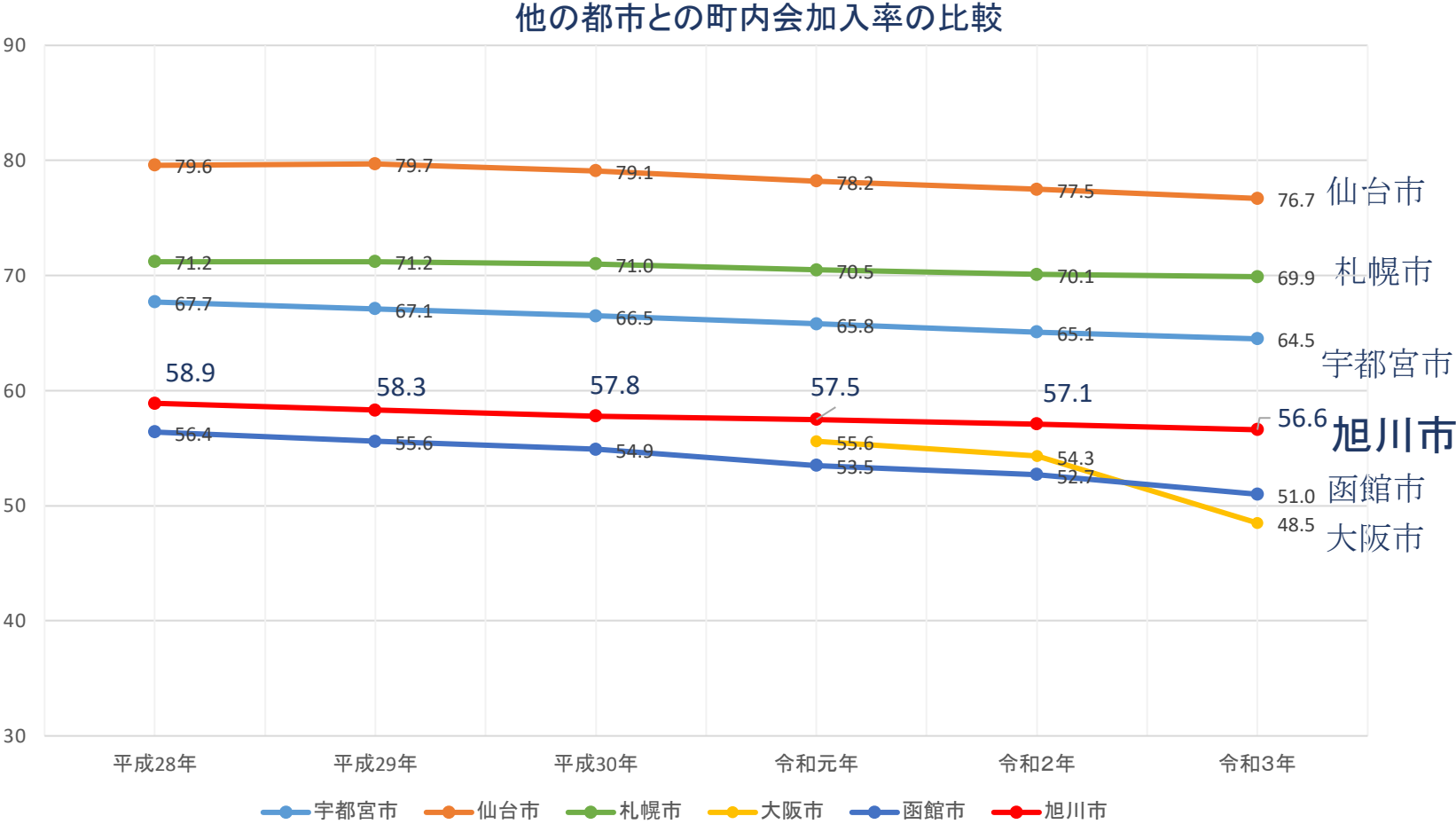
(1) 旭川市の町内会の現状

- ・ 地域コミュニティの中心的な役割を担う町内会は1227となっています。
- ・ 令和6年度の加入率は55.4%で、20年間で約12%減少しています。

旭川市の町内会加入率の推移



他都市の町会の加入率の比較



(2) 地域まちづくり推進協議会

旭川市の地域まちづくり推進協議会

- 多様化かつ増加する地域コミュニティの課題に各団体が連携し対応し、地域コミュニティの価値を高める役割があります。
- 地域まちづくり推進協議会は、ネットワーク型組織となっています。
- 課題対決の「実行委員会」を中心とした活動が重要です。



北星まちづくり推進協議会



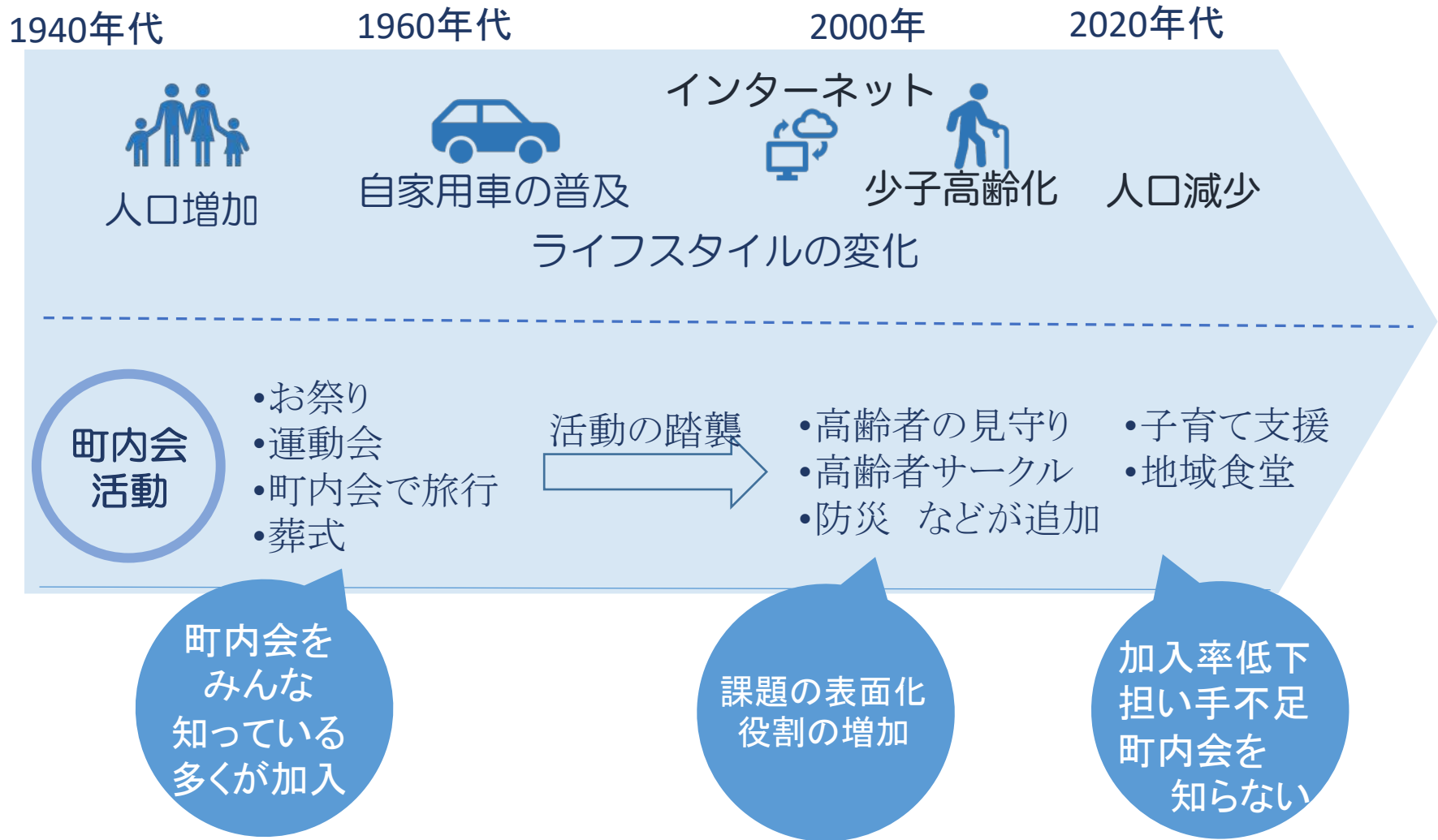
東光まちづくり協議会

3. 現役・若い世代が活動する コミュニティは活気がある

(1) 全国の町内会・自治会でレーダーチャートをやってみた



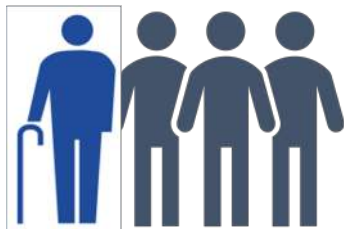
(2)コミュニティの中心的組織・町内会の変遷



(3) 町内会役員と若い世代の違い

昭和の活動を継承

運動会
忘年会・新年会
バス旅行
高齢者クラブ
健康イベント
マスメディアで情報
回覧板・電話

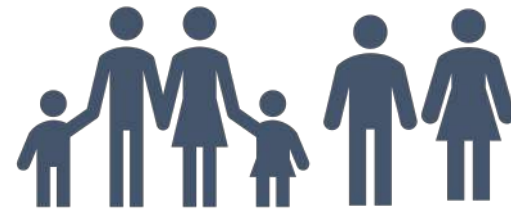


町内会の役員世代

60代・70代・80代

楽しいことをしたい令和

ハロウィン
クリスマス会
キッチンカーイベント
子育てサロン・地域食堂
コミュニティカフェ
インターネットで情報
SNSでコミュニケーション



現役世代・若い世代・子育て世代

(4) 役員と住民のつながりが少ない

60代・70代・80代が中心

役員の数も多い

役員の担い手
不足が課題

町内会役員



- 町内会全盛期(昭和)をイメージ
- 高齢者による
高齢者向けの活動が中心
- 若い世代は町内会に関心がないと思っている



つながりが少ない

地域コミュニティの住民



現役世代(～65歳)
コミュニティには関心



子育て世代
子育て支援へのニーズ



若い世代
孤独感
コミュニティへの高いニーズ

(5)横浜市港南区美晴台地区

- 自治会自体は、担い手不足になっているものの、様々な団体や組織があり活動を行なっています。
- 特に子ども向けの活動が盛んに行われており、子育てに良いまちという噂が広がっています。
- 自治会は、その活動の調整を行なっています。



道に名前をつけるワークショップ

<https://www.townnews.co.jp/0112/2016/11/03/355643.html>



ハロウィンイベント

<https://miharudai.exblog.jp/24853481/>

横浜市港南区美晴台地区

子育てにより
住みやすい

空き家が出ると
子育て世代が
移り住む

ボランティアで
子どもの
イベント

住宅地として
価値が高い



50年以上経過する住宅地
約700世帯

ハロウィン
道の名前をつける
ワークショップ など

自治会は担い手不足でも
活発なコミュニティ

(6) 堺市錦綾(きんりょう)校区自治連合会

- 連合会の役員は、高齢者と若い世代が半数程度です。
- 連合会の会長は、高齢者世代と若い世代のつなぎ役も行なっています。
- つつじの花見の会のマグロの解体ショーやハロウィンイベント、月見の会、eスポーツもあるスポーツカーニバルなど若い世代の意見を取り入れながら活動を行なっています。



つつじの花見会のマグロの解体ショー





ハロウィンイベントを実施。多くの人が参加しています



地域の方々がアイデアを出し合い、綱引きやグラウンドゴルフ、ヨガ、eスポーツなど老若男女問わず参加できる競技が行われました

(7) 宮の森中央町内会

- 宮の森中央町内会では、若手の意見を取り入れ、秋祭りをオータムフェスタにリニューアルしました。
- 町内会による焼き鳥などの提供に変えて、キッチンカーを誘致しました。
- 地域の子どもたちのブラスバンドの演奏などを行いました。
- これまで参加していなかった若い世代が足を運んでくれて、これまで以上に賑わいがありました。
- 賃貸住宅に住む若い世代の町内会を知ってもらうきっかけとなっています。



(8) 川崎市高津区

- 若い世代の関心が高い、フリーマーケットを企画
- フリーマーケットを企画・運営するメンバーを募集して、町内会に関わってもらうきっかけにする



川崎市高津区では2つの町内会が合同でフリーマーケットを開催
参考：<https://www.townnews.co.jp/0202/2012/05/18/144890.html>
(タウンニュース 川崎高津区版 2012年5月18日号)



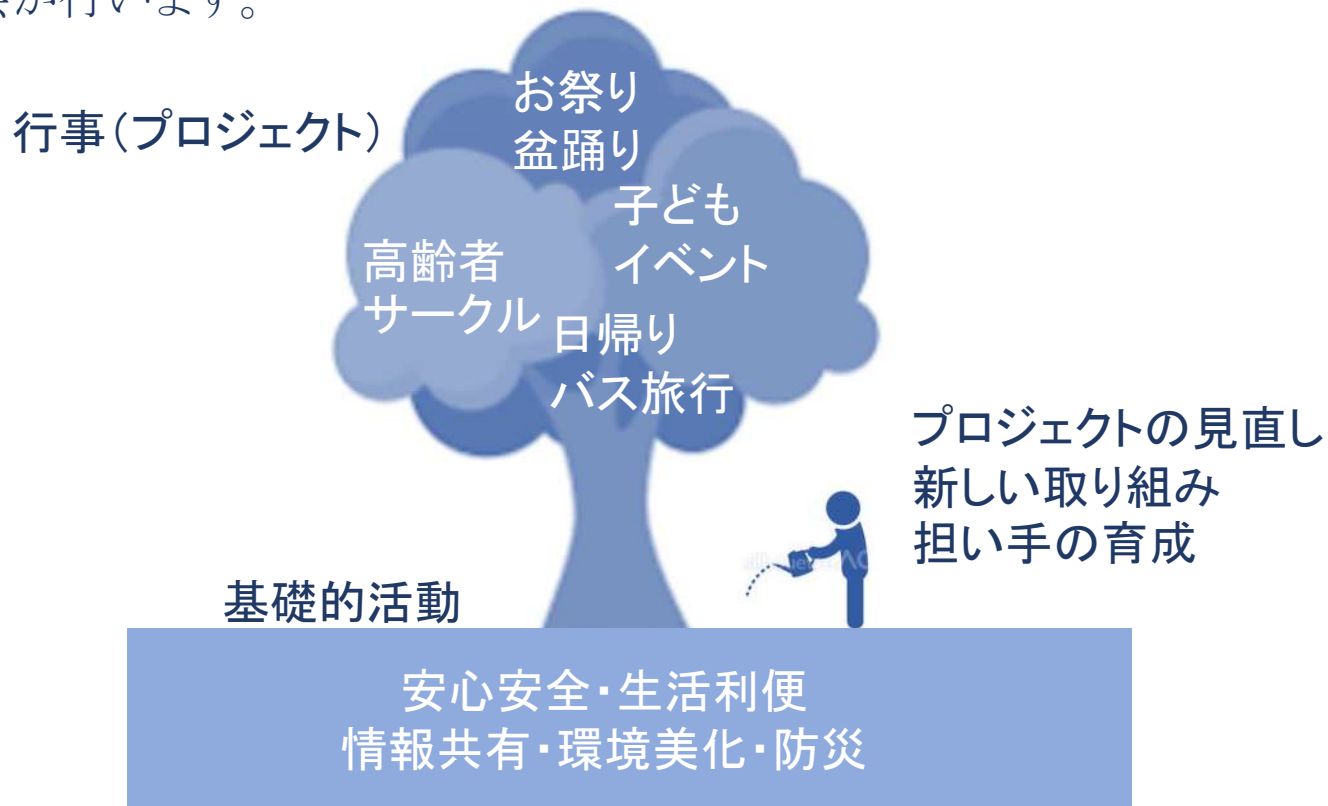
フリーマーケットの出店者の募集
チラシを未加入者に配布することで活動を知ってもらう

4. 旭川市

これからのコミュニティのヒント

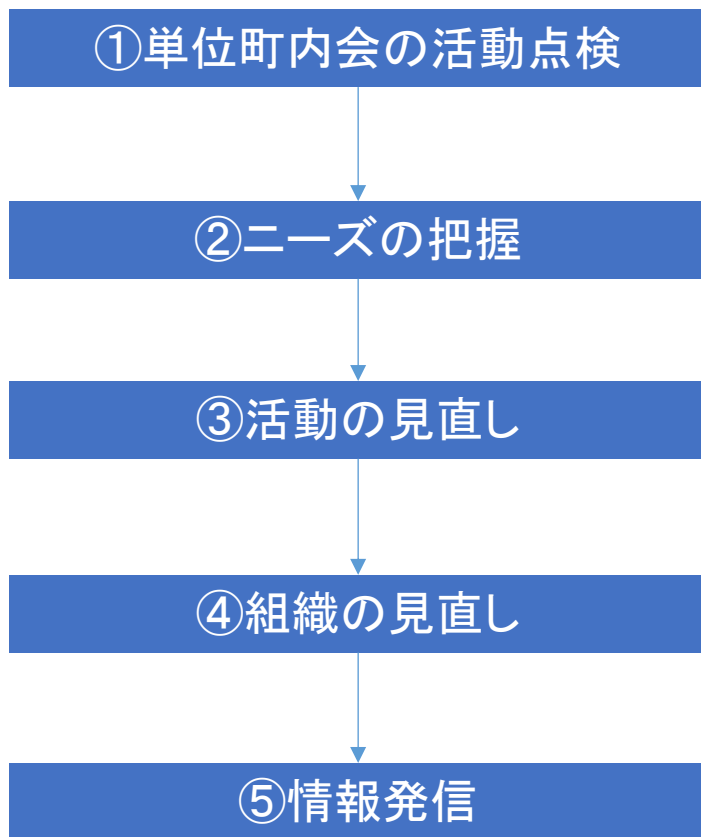
(1) 町内会と地域まちづくり推進協議会

- 地域コミュニティ組織は、安心安全や生活利便、情報共有、環境美化、交流などの「基礎的活動」と、行事(プロジェクト)からできています。
- 行事(プロジェクト)が多様性を持たないと加入率の低下や担い手不足などになり、運営が難しくなります。
- 基礎的活動は主に町内会、行事(プロジェクト)は町内会と地域まちづくり推進協議会が行います。



(2)これからの町内会

- 担い手不足に悩む単位町内会では、住民のニーズを把握して活動の見直しをおこなうことが求められます。



- 町内会カレンダーを作成
- 高齢者向けの活動だけになっていないか点検
- 若い世代を対象にしたカフェミーティング
- アンケートの実施
- 子ども向けや若い世代向けの活動の実施
- 参加のきっかけづくり
- デジタル化(情報発信と役員の負担軽減)
- オープンな運営
- サポーター制度
- 住民向けのパンフレット
- SNSなどによる情報発信

①町内会の点検

■ある町内会の年間行事

	主な活動	主な参加者
4月	町会総会・懇親会	役員・班長
5月	清掃・健康体操	清掃は住民/健康体操は高齢者
6月	お祭り	住民全体
7月	健康体操	高齢者
8月	カラオケ大会	高齢者
9月	防災訓練・秋祭り	住民全体
10月	清掃・健康体操	清掃は住民/健康体操は高齢者
11月	カラオケ大会	高齢者
12月	忘年会・日帰り旅行	住民全体・主に高齢者
1月	新年交流会	役員が中心
2月	健康体操	高齢者
3月	進学祝い金	子ども

②住民ニーズの把握

- 若い世代や現役世代のニーズをアンケートやカフェミーティングを実施しながらしてもらう。

育児中の住民



- 子育て中は孤独になりがち
- コミュニティのなかで子育てのアドバイスがあると良い

子育て世代



- 子ども向けイベントがあるとよい
- 子ども向けのクリスマス会などは手伝える

若い世代



- コミュニティは大切だと思う
- 孤独を感じている
- 適度な人のつながりは必要
- お祭りは楽しみにしている

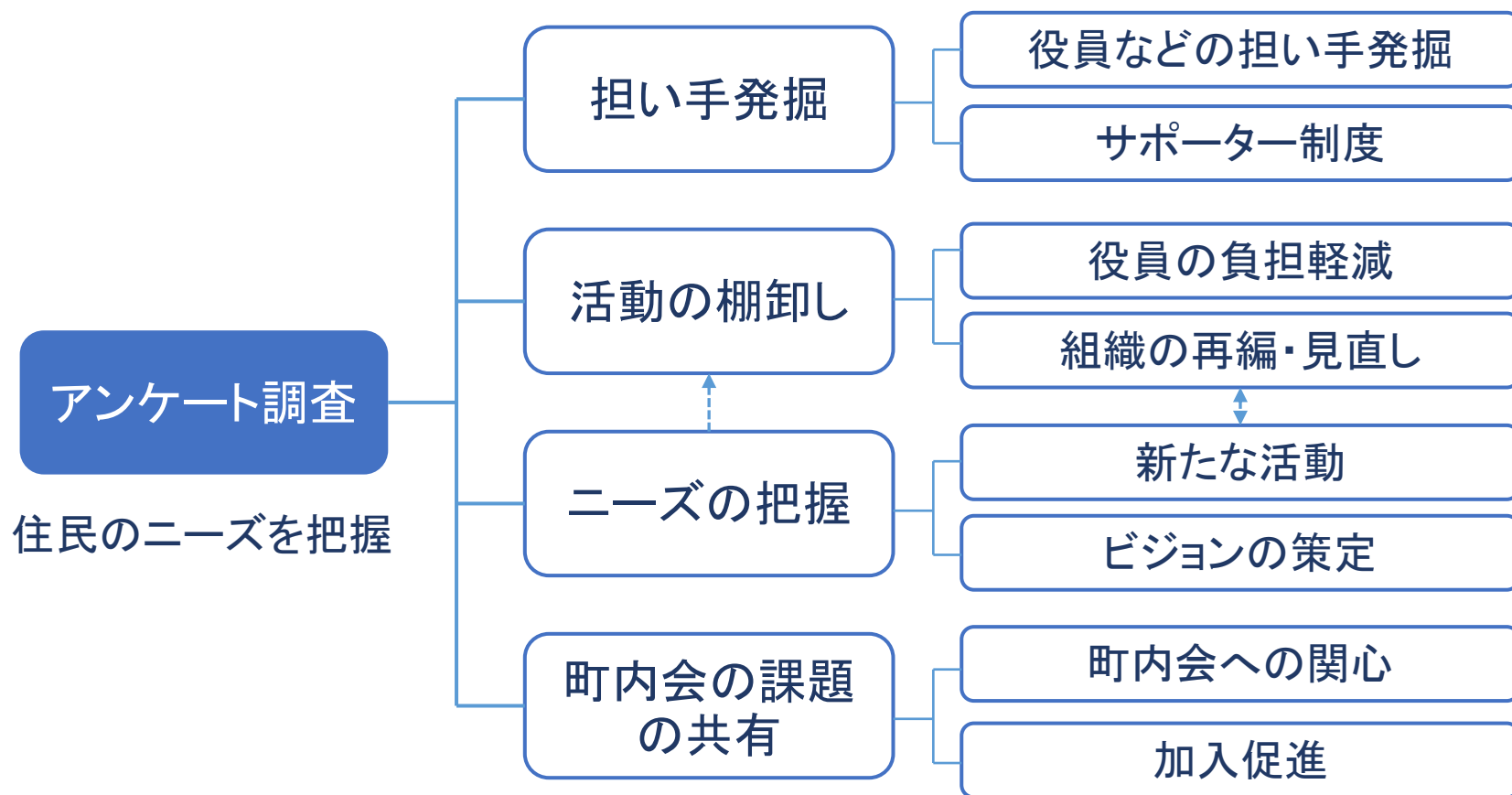
○子育て世代とのカフェミーティング



座談会は託児スペースと保育士さんにサポートしてもらうことで
参加しやすい会になります

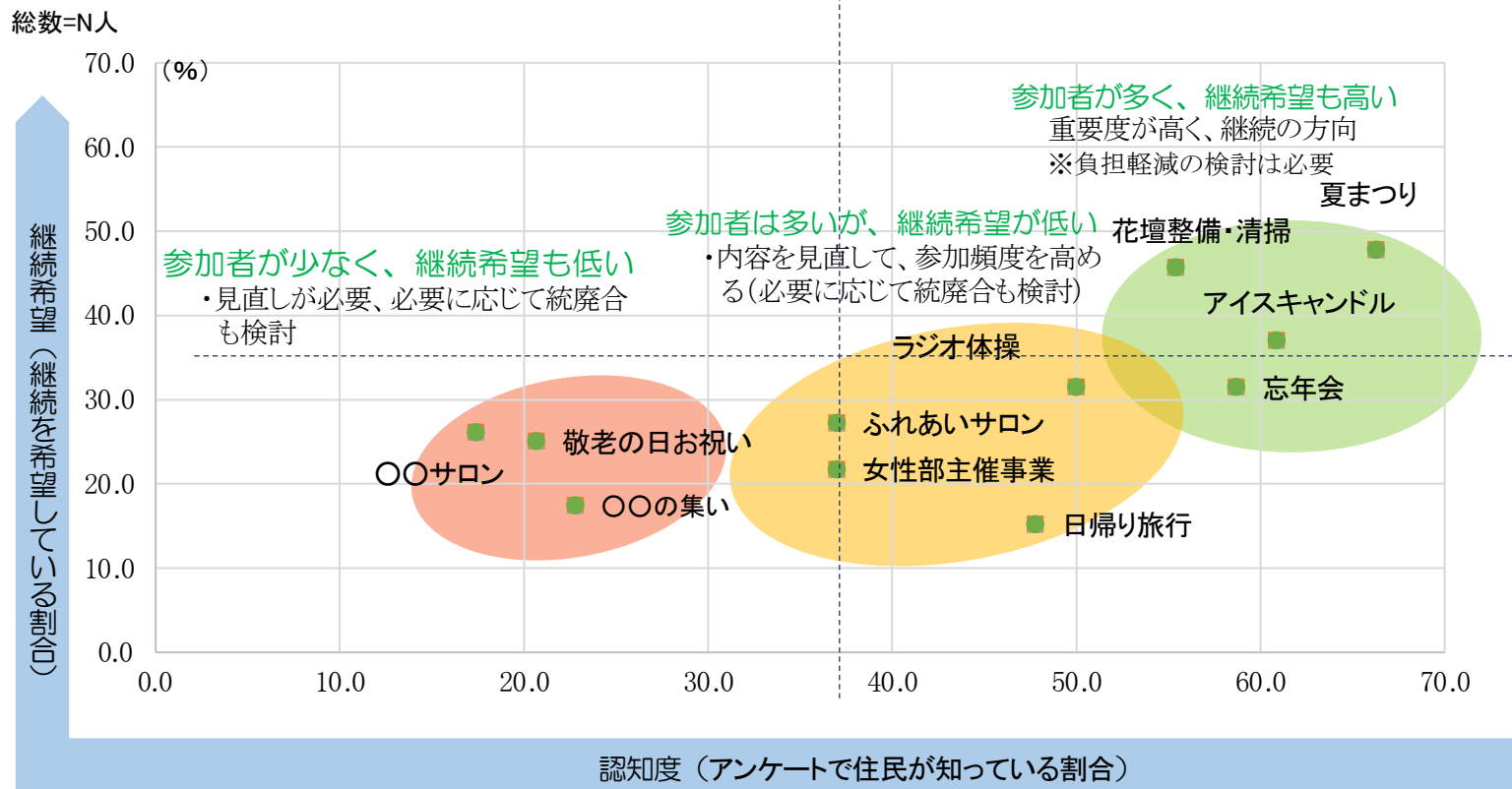
○アンケートの実施支援

- アンケートで町内会の活性化を進めることを示すことが、オープンな町内会への第一歩です。



③活動の見直し

- アンケートの結果に基づいて活動の棚卸しを行います。
- アンケートに基づいて活動を行うことが必要です。
- ただし、アンケートでは少数となりがちな子育て世代、若い世代のニーズはしっかり取り入れることが必要です。



④組織の見直し

○令和に必要なものの運営

誰もが参加できる

- ・ 役員会の開催日時、開催方法（オンラインなど）

役員任期のルール化

- ・ 輪番制など交代できる体制の整備

マニュアルづくり

- ・ 次の役員や班長に引き継ぐためにマニュアルをつる

役員定年制

- ・ 役員の定年ルールを設ける

役員複数制

- ・ 交代しやすく、負担が少なくなる複数制を導入する

各世代から役員を選出

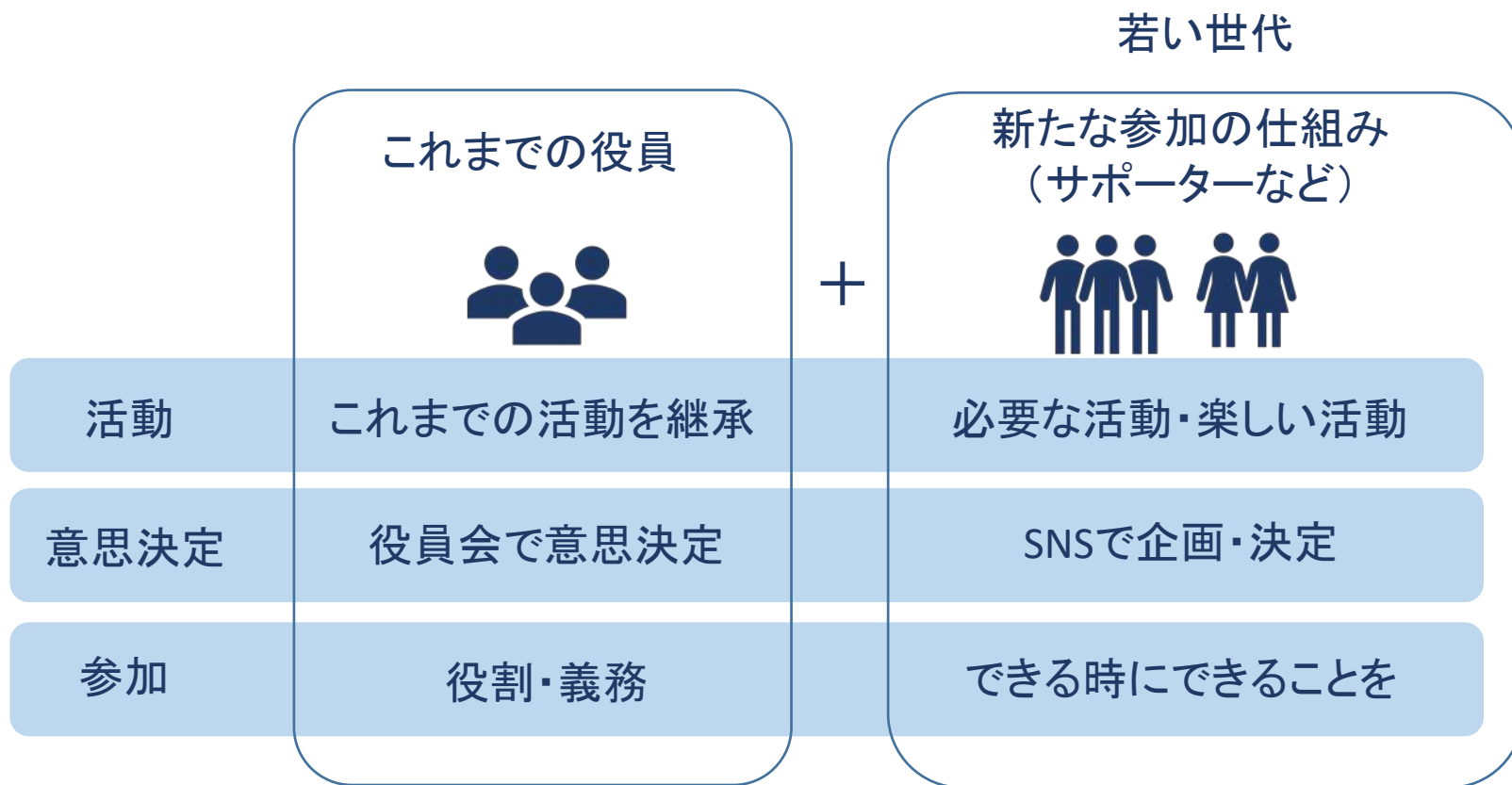
- ・ 各世代から役員を選出して、各世代のニーズを把握



役員は複数制にして重複期間を設けることで継続性を確保できます

○多様な参加の仕組みをつくる

- 若い世代が参加しやすい仕組みをつくる必要がある



⑤町内会の情報発信

パンフレットで知ってもらう

- ・町内会・自治会の活動を知ってもらうためには、町内会を紹介するパンフレットが必要です。
- ・パンフレットでは、ゴミステーションの管理やパートナーシップ排雪、資源回収などの活動はもちろん、「防災活動」や「子ども向けの活動」「子育て支援」など、各世代が町内会の必要性を感じてもらえる内容を記載することが重要です。



○情報発信とデジタルでつながる

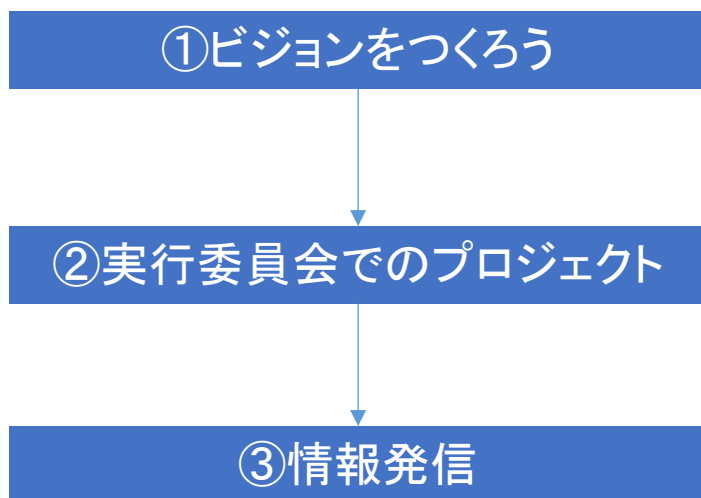
- みんなが町内会を知っているとは限りません。
- 回覧板では情報は届いていないと考えましょう。
- 情報が届いていないので、「町内会を知らない」「参加するきっかけがない」といった声が聞かれます。
- 若い世代にはSNSで様々な情報を入手します。

若い世代



- 子どもの頃、お祭りに参加した
- 今は町内会は知らない
- 回覧板はみたことがない
- 新聞は取っていないしテレビも見ない
- 情報はSNSから
- SNSでつながり、コミュニティをつくることもある

(3) 地域まちづくり推進協議会によるコミュニティ運営



- 地域の特性や課題を踏まえてまちづくりのビジョンを検討します。
- ビジョンに基づいた行事(プロジェクト)も検討します。
- プロジェクトを実施する実行委員会を組織し、プロジェクトを実施します。
- プロジェクトの情報を発信します。

①ビジョンをつくろう

- 宮の森大倉山地区まちづくり協議会では、地域自らが将来を見据えたまちづくり活動の中長期的に推進することを目的に、住民による勉強会や懇談会、ワークショップを開催しながらビジョンを策定しました。

宮の森大倉山地区の将来イメージ

- 自然とのふれあい
- ひとのつながり
- 未来を担う子どもたちを育むつながり
- 情報でつながる



宮の森大倉山地区 まちづくりビジョン



2024年（令和6年）3月

宮の森大倉山地区まちづくりの方針

●自然とつながるまち

円山公園や盤溪、三角山、大倉山の散策会などの開催／子どもたちの環境教育
町内会での花植えや植栽/ガーデニングをテーマにした住民同士の交流 など

●ひととつながるまち

一人暮らしの方や子育て世代が参加したくなるような活動やイベントの企画
中学生・高校生のまちづくり活動への参加機会の創出
コミュニティサポーター制度の導入 など

●未来につながるまち

子育て中の方が気軽にしゃべりや身近な相談ができる場の創設
多世代交流の機会の創出、町内会館などでコミュニティキッチンなどの開催
子どもが参加できるボランティアの仕組みづくり など

●コミュニティの場でつながるまち

町内会館を活かしたコーキングスペースの開設
多世代が気軽に集うことができるコミュニティキッチンの開催
地域内にあるカフェや飲食店などと連携したコミュニティの場づくり
公園などを活かした交流の機会の創出 など

●情報とデジタルでつながるまち

町内会館の空き状況確認・予約システムの導入
各町内会でSNSのデジタル講習会の開催、ホームページの制作
SNS（LINE公式アカウント、Facebook、Instagramなど）による日々の情報発信 など

②実行委員会でのプロジェクト

- 町内会ではできない活動を地域まちづくり推進協議会で行うことが望めます。

○コミュニティキッチン

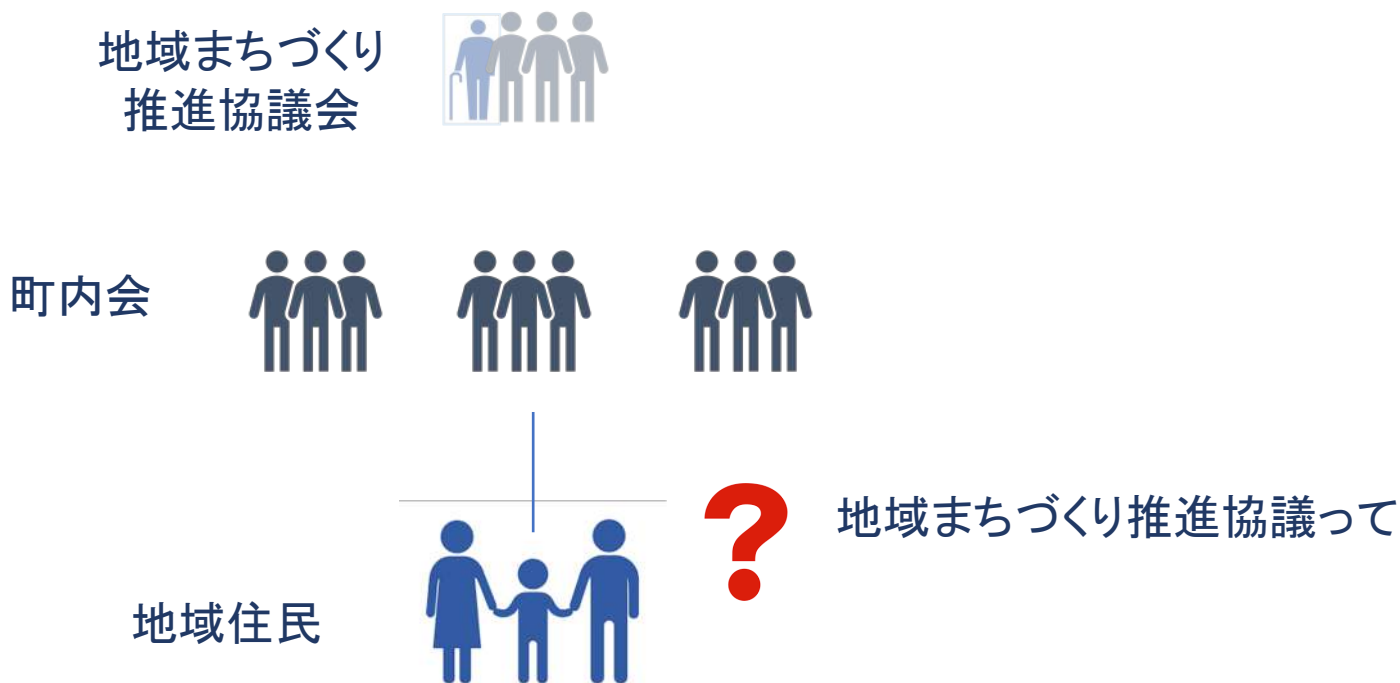
- デンマークの首都コペンハーゲンでは、2018年頃から、人々が集まって食事をするのが大きなトレンドになっている。
- ボランティアで運営されているデンマークのコミュニティ・キッチン「One Bowl」。
- 毎週日曜日の17～21時にオープン。
- 食事を寄付制で提供している。
- 運営はすべてボランティアで行っている。
- 寄付で集まったお金はOne Bowlの運営や、食料不安を抱える人たちのために使われる。



出典:<https://elemenist.com/article/2634>

③情報発信(地域まちづくり推進協議会をもっと知ってもらおう)

- 地域まちづくり推進協議会は、住民と直接関わるが少ないために、情報発信が大切です。
- お祭りやイベントを主催していても、地域まちづくり推進協議会が主催していることは知られてないかもしれません。



地域まちづくり推進協議会で情報発信

- 単位町内会では、ホームページを構築、運営は難しいと思われます。
- 地域まちづくり推進協議会でホームページを立ち上げ、町内会も活用できるようにすることが望めます。

- 町内会ごとのページをつくったり、町内会からお知らせも掲示することも考えられます。



ご清聴ありがとうございました